

## 鳥取県西部医師会 第13回 在宅医療推進委員会記録

日 時：平成27年11月20日（金）

午後7時30分～

場 所：鳥取県西部医師会館 3階 講堂

委員（敬称略、順不同）（ ） 欠席者

【西部医師会】委員長：野坂美仁、安達敏明、阿部博章、石川 直、越智 寛、下山晶樹、田辺嘉直  
根津 勝、野坂康雄、吹野陽一、福田幹久、藤瀬雅史、寶意規嗣、細田明秀、都田裕之  
小林 哲、仲村広毅、飛田義信、三上真顯、佐伯俊哉

（石井敏雄、面谷博紀、神鳥高世、辻田哲朗、廣江ゆう、野口俊之、吹野陽一、細田明秀  
市場美帆、松野充孝、鳥羽信行）

【山陰労災病院】野坂仁愛、神戸貴雅 【米子医療センター】山本哲夫

【博愛病院】（角 賢一、重白啓司）周防武昭、石橋佐智子 【済生会境港病院】（佐々木祐一郎）

【真誠会】小田 貢、小山雅美 【西伯病院】陶山和子、高田照男

【日南病院】高見 徹 【西部歯科医師会】足立 融

【鳥取大学医学部】谷口晋一、金坂尚子、（秦野秀雄）、河村直美

【鳥取県】健康医療局：藤井秀樹 長寿社会課：（山本伸一） 中部総合事務所：（大口 豊）

医療指導課：（國米洋一） 医療政策課：前田信彦、中川善博、板倉周也

米子保健所：大城陽子

【米子市】大前美奈子、小椋善文

※印—発言概要

1 開会（野坂委員長）

2 平成27年度在宅医療及びがんの在宅療養の充実のための支援事業計画書

3 第12回西部在宅医療推進委員会議事概要について

・前回の委員会議事概要と、以降の委員会活動及び関連事業の概要説明、報告。

4 鳥取県西部医師会在宅医療推進委員会プロジェクトについて

各プロジェクト事業の現況と内容説明

1) 在宅医療支援診療所届け推進：マッチング事業〔飛田リーダー〕

・病診連携推進のためのシステムづくり（地域包括ケアシステムの構築）に向けて、在宅主治医と病院連携医との結び付きを強化するよう、在宅主治医・連携医調整室を設置し、10月1日からスタートしたところである。是非、活用をお願いしたい。

2) かかりつけ医支援（サポート医）事業〔三上リーダー〕

・マッチング事業にサポート医を利用したいという要望があり、支援した。

連携調整室を通して、サポート医をより活用できればよい。

〔野坂委員長〕 名前の違いだけで、全てが関連、一体化したものである。

〔飛田リーダー〕 より良い関係が築ければ、事業の目的、効果がより高まる。

3) 病院勤務医への在宅医療理解支援〔神戸リーダー〕

・患者さんの理解度の方が高まっていて、退院の際こちらが言わなくても患者さんが在宅医の

ことを理解しているように感じている。

調整室のことを知らなかったなので、今後は、逆にこれをもっと活用できるかも知れない。

4) 公民館等への在宅医療出前講座

アンケート集計結果〔野坂委員長〕

- ・この時点では、住民の理解度がまだ低いことが良く解った。

5) 在宅医療関連の多職種研修会 PPT ファイル作成

6) 「もしもの時のあんしん手帳」作成事業〔大城リーダー〕

- ・この委員会で検討いただき、改訂版の作成に取り組みたい。また、在宅医療推進委員会名で手帳と併せて活用法も HP に掲載することとしたい。

〔野坂委員長〕 アンケートにおける感想・アイデアを参考に改訂版の作成に取り掛かりたい。また、HP に掲載する。

7) 西部医師会在宅医療推進委員会の HP 作成事業〔野坂委員長〕

HP の掲載内容を具体的操作例をまじえ、活動内容の紹介や、データ検索等を紹介。

- ・是非、活用して頂きたい。

8) 米子市在宅医療推進フォーラム〔米子市長寿社会課 小椋作業療法士〕

平成 28 年 2 月 11 日（祝）に、米子市文化ホールで 600 人定員規模の第 3 回フォーラムを予定しており、従来の長寿社会課単独開催から、地域政策課と組んで「先端医療創造都市よなご構想」として企画する。3 部構成(①在宅医療のあり方：地域包括ケア・介護予防等、②ヌカカ対策、③雇用連携と人材育成)で実施する予定。

9) 義方地区における地域包括ケアシステムモデル事業〔高見委員〕

- ・在宅医療は、今や地域医療の一形態の中の位置付けになった。

安心して地域で暮らせる社会の構築に向けた地域づくりを推進するため、これまで日南病院で培った DNA を義方モデルに取り入れ、他の校区にも拡げ、ひいては、全国に拡げたい。

5 他の事業との連携

◆ 真誠会〔小田委員〕

在宅医療プロジェクトの状況が、米子市 HP からリンクできるようになっている。

◆ 米子医療センター〔山本委員〕

在宅医療ケアマネージャー研修を進めてきた。今年度から、訪問看護事業を開始したところである。

◆ 博愛病院〔周防委員〕

諸事情により、現在停滞中。

◆ 鳥大医学部附属病院〔金坂委員〕

患者のためのハンドブックを作成し、74%の満足度を得た。

現在、顔の見える関係の構築として、医師・看護師・ケアマネ等で連携について検討中。

◆ 米子保健所〔大城委員〕

9 月 17 日に研修会を開催し、在宅医療拠点事業の推進のため、行政をまじえて基本ルールを作成し、実証試験事業を進めることとしている。

## 6 今後の取り組むべき課題について

来年3月にまとめの会を予定している。西部医師会が受ける「在宅医療推進事業」のキックオフになるかも知れないので御承知下さい。

この事業の、県の財政支援。

〔鳥取県 医療政策課 前田課長補佐〕

「消費税増税を活用した地域医療総合確保基金」を活用して財政支援をすることができるので、発展的事業や活動に対して財政支援を考慮できる。

## 7 その他

### ◆ 都会での医療事情 〔米子医療センター 山本委員〕

都会では、若い医師が病院の総合診療科で3年間研修し、2年程度の勤務医後、開業（訪問診療、看護ステーション）するという方向に向かっている。

地方と異なり、半径5キロで経営が成り立つ。

〔神戸委員〕 若い医師が在宅に向かっている都会の状況に驚きです。

鳥大ではどんな状況ですか。

〔鳥取大学 谷口委員〕

鳥大では、総合診療科を立ち上げるよう、今検討中です。

都会ではニーズがあって経営も成り立つように聞いてはおりますが、地方では中々そうもいかず、鳥大ではカリキュラムがなく日野病院で実習していただいたが、医学生100人中、まだ8人しか集まらないような状況です。

### ◆ 精神疾患への対応 〔西伯病院 高田委員〕

療養病床を無くしていく傾向なので、精神疾患への対応を検討しているところです。このため今後は、認知症は施設で対応していくこととなるので、施設の対応力を向上する必要があり、そうした施設は増えつつあります。また認知症だけでなくがん等も含め、施設での看取り対応は今後増加傾向です。

### ◆ 歯科での在宅連携 〔歯科医師会 足立 融先生〕

歯科医師会でも在宅連携を進めており、歯科衛生士等が自宅に出向いて対応している。体制は構築できたので、今後は活用の向上を推進したい。

## 8 閉会